



Ludwig van Beethoven
Symphony No.9 in D minor, Op.125 “Choral”
交響曲第九番 『合唱付』

alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.
汝の優しい羽の下に憩えば全ての人々は、皆 兄弟となる

^{'24}3月24日(日) 14:30開演

会場：岡山県立邑久高等学校体育館

～ プログラム ～

LUDWIG VAN BEETHOVEN

交響曲第9番／二短調作品125番「合唱付」

第1楽章／Allegro ma non troppo, un poco maestoso

第2楽章／Molto vivace

第3楽章／Adagio molto e cantabile

第4楽章／Presto

～ プロフィール ～

指揮／浦 優介



関西学院大学商学部を卒業後、くらしき作陽大学音楽学部にて指揮を学び、ウクライナへ留学。ウクライナ国立コトリャレフスキー記念ハルキウ芸術大学指揮科に在籍中だが、ウクライナ侵攻により帰国を余儀なくされる。

指揮を中井章徳、志賀保隆、大山平一郎、高谷光信、N.スーカッチ（チェルニーヒウフィル音楽監督）、Y.ジャチェンコ、ピアノを重川逸呼、金子葉子、I.デニセンコ、M.リンニク、M.ベブズ、ホルンを中西順、A.オブチャール、声楽を伊原木幸馬の各氏に師事する。2013～2016年「おりなす八女音楽塾」指揮マスタークラスを修了し、大山平一郎氏の指導を受ける。

2016～2019年 ウクライナ国際指揮マスタークラスを修了する。修了演奏会に選拔されチェルニーヒウフィルハーモニー交響楽団と共演し、スラブ音楽奨励賞（2016年）、優秀指揮者賞（2019年）を受賞する。

2018～2019年 名古屋芸術大学主催の高谷光信指揮マスタークラス

を受講する。

2019年 ルーマニア国立ブカレスト国際音楽大学主催の国際指揮マスタークラスを修了し、Y.パヌラ氏、J.ワン氏の指導を受ける。

2021年 公益財団法人山田貞夫音楽財団指揮者オーディションにて、山田貞夫音楽賞及び特選を受賞する。受賞者演奏会にてセントラル愛知交響楽団を指揮する。

これまでにセントラル愛知交響楽団、岡山フィルハーモニック管弦楽団、瀬戸フィルハーモニー交響楽団をはじめ多くの演奏団体を指揮する。また、市民オーケストラ・吹奏楽などで客演を重ねている。

現在、一般社団法人日本ウクライナ音楽協会理事。

～ ソリスト ～

ソプラノ／川崎 泰子

アルト／脇本 恵子

テノール／柁木和敬

バス／武久顕也



「第九」 初演 ウィーン:ケルントナートーア劇場

歓喜に寄す 一部抜粋

おお 友よ、
この調べではない！
もっと快い、喜びに満ちた調べに、
ともに声を合わせよう。

歓喜よ、美しい神々の火花よ、
天上の楽園の乙女よ！
われら情熱に溢れ、崇高な、
あなたの聖所に足をふみ入れる。
あなたの寄しき力は、
時の流れが厳しく切り離したものを、
再び結び合わせ、
あなたの柔らかな翼の留まるところ、
すべての人びとは兄弟となる。



フリードリッヒ・フォン・シラー

～ 指揮者 浦優介よりご挨拶 ～

瀬戸内第九で一緒にさせて頂くのは3回目となります。最初は2022年でした。この時の演奏会は同年2月24日にウクライナへの侵攻が始まった時で、チャリティコンサートとして開催されました。残念ながら未だ戦争は続いています。私が在籍中のハルキウ音楽院のウクライナの友人は、“現地“ハルキウにて、日々空襲のサイレンや砲撃に恐れながらも耐え、自分の生まれ育った地を愛し、その場所で生きること誇りと信念を持っています。若干20歳で知人や友人を亡くす辛さ、痛みが現代の私達に想像し得るでしょうか。

ベートーヴェンは音楽家としては致命傷とも言える難聴に見舞われ、自殺も考え、「ハイリゲンシュタットの遺書」を書く程に苦痛を味わいました。加えて政治的失望や自分の望まない方向へと進む社会情勢…そのような重なる苦痛の中でも彼が音楽を書き続けたのは、芸術家としての使命があったからです。だから耐え続けたのです。いつか自分の心を満たす平和と平安を祈りながら。

第1楽章は苦痛、第2楽章は不屈の精神、第3楽章は安寧が表現されています。それらを前提としたうえで第4楽章には苦痛を通しての「歓喜」があります。歌詞に使用されているシラーの言葉は本来「歓喜」を「自由」と記したかったのですが、政治上それすら許されませんでした。

ベートーヴェンの表現する歓喜(自由)、それは今のウクライナの人々の心の声と同じだと私は考えています。一人でも多くの方にウクライナの平和を願い、想いを寄せて頂ければ大変嬉しいです。